

1 人口減少と少子高齢社会の到来

1-1 将来人口予測

- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の福井市の人口は、約5万人減少すると見込まれている。
- ・年齢構成別にみると、若年層、生産年齢層では人口(実数)、構成比ともに減となるが、高齢者については、人口減少社会の中ではあるが、人口も増加すると推計されている。

出展：国立社会保障・人口問題研究所

	2010年(H22)国調	構成比	2025年(H37)推計	構成比	2040年(H52)推計	構成比
0～14歳	36,314	14%	28,654	12%	23,270	11%
15～64歳	164,578	62%	137,247	56%	109,988	51%
65歳以上	65,904	25%	81,059	33%	83,040	38%
総数(人)	266,796	100%	246,960	100%	216,298	100%

端数処理のため、構成比は100%に一致しない

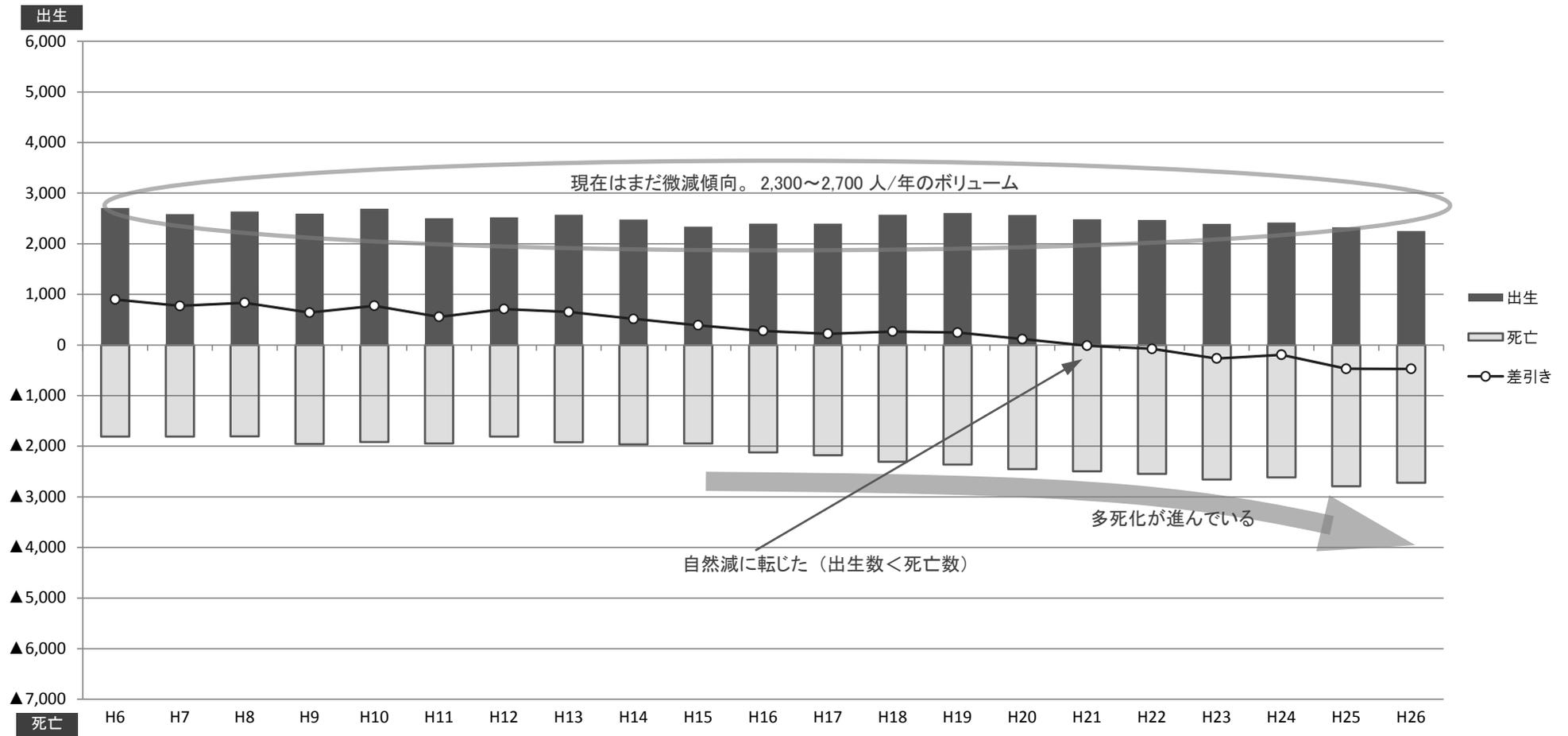
【参考】消滅可能性都市

- ・日本創成会議(人口減少問題検討分科会)が、全国市町村の人口推計に基づき、「若者が東京圏に一極集中する現在の人口移動が続けば、2040年には896の市町村が消滅する可能性がある」と発表したもの。
- ・2010年からの30年間で、20～39歳の女性人口が50%以上減少する自治体を「消滅可能性都市」としている。
- ・福井県内の自治体では9市町が、消滅可能性都市とされている。

県内市町村の女性人口減少率

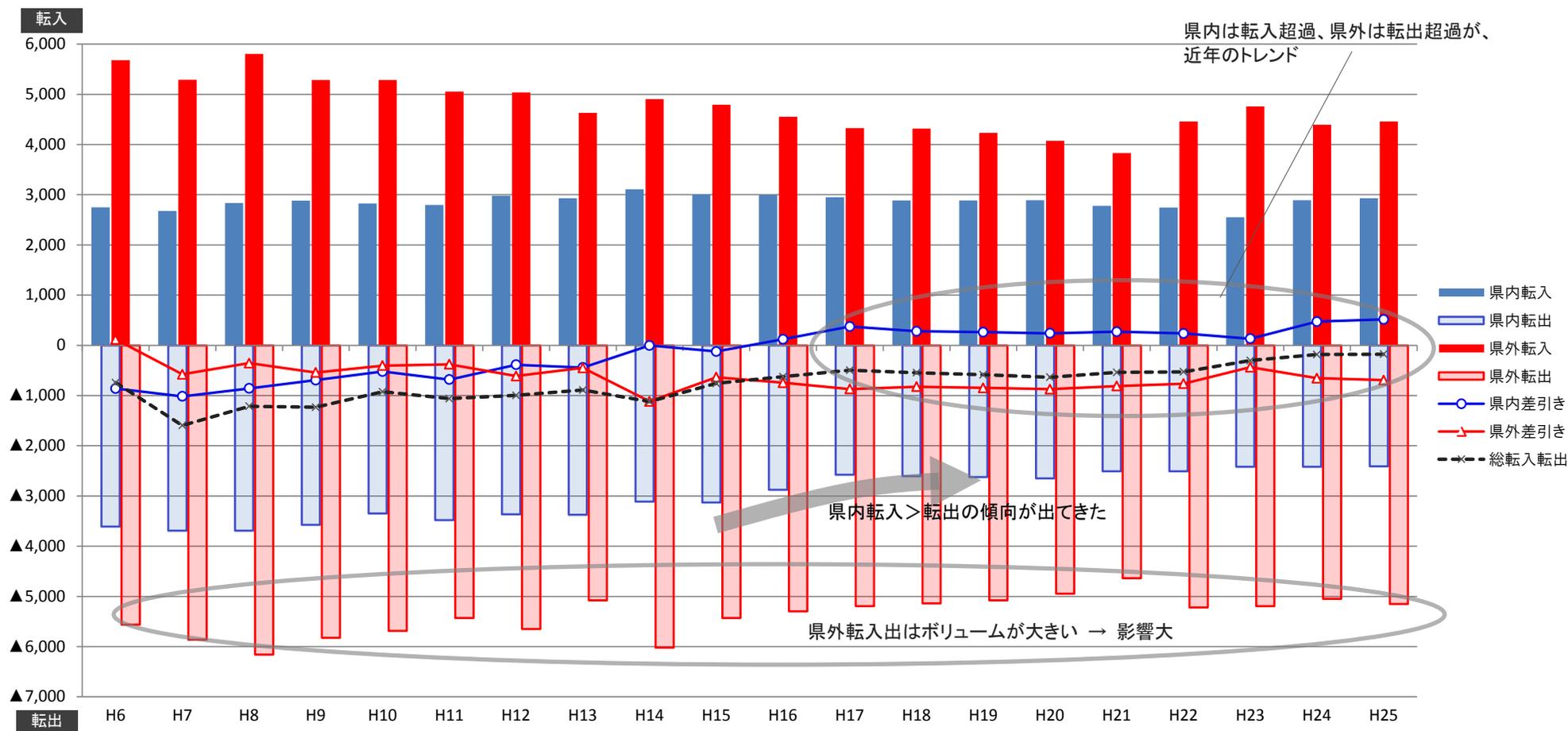
		消滅可能性都市	
福井市	38.9%	小浜市	50.7%
敦賀市	42.6	大野市	62.8
鯖江市	27.1	勝山市	58.2
越前市	46.3	あわら市	57.2
坂井市	37.5	池田町	71.1
永平寺町	36.5	美浜町	59.2
南越前町	48.0	高浜町	62.1
越前町	42.2	おい町	52.5

1-2 自然動態(出生・死亡)の現状



- ・出生数は、年次により多少の増減があるものの、現在微減傾向。今後、減少傾向が続く見込みである。
- ・死亡数は、高齢化が進展した結果として、今後、急激に増加する。
- ・自然動態(出生数－死亡数)は、今後、プラスに転じることはないと推測される。

1-3 社会動態(転入・転出)の現状

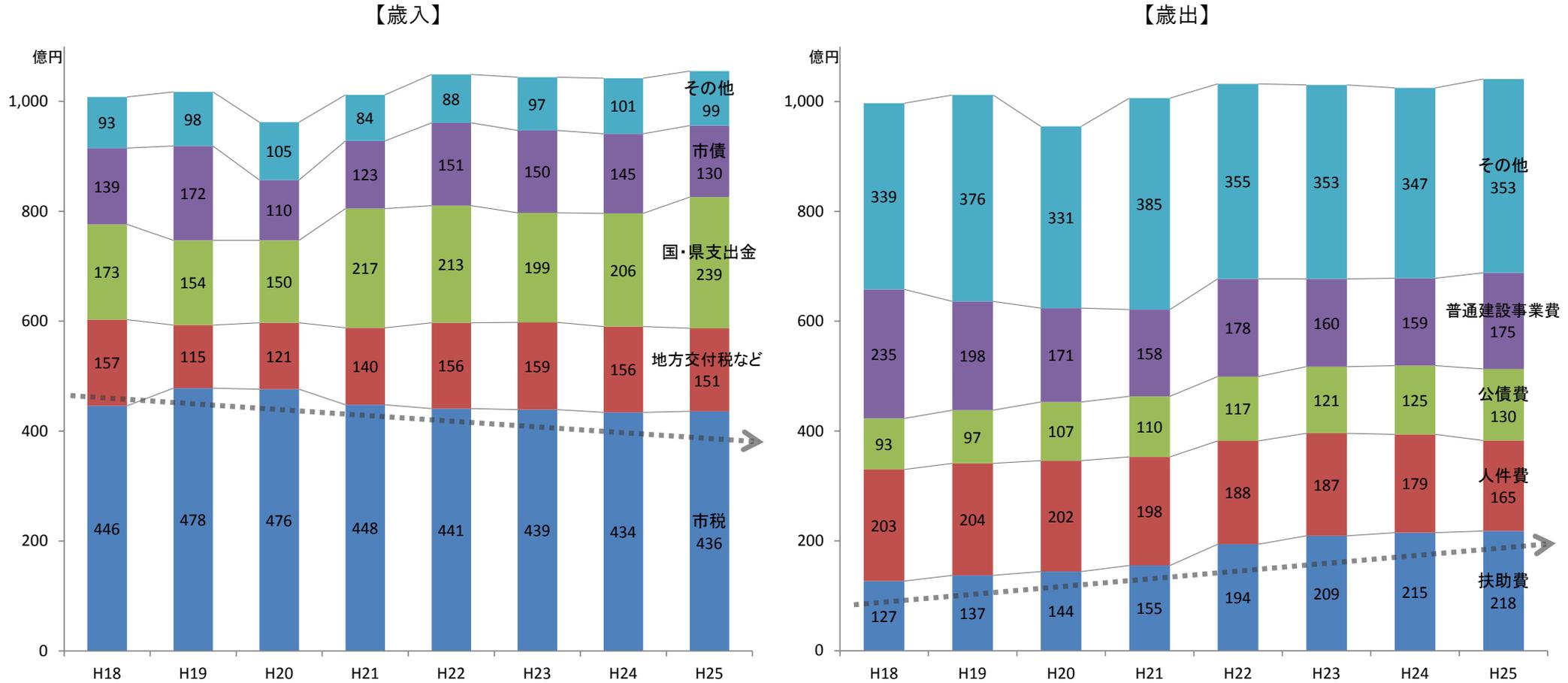


- ・県外は転出超過であり、大都市圏を中心に、人口流出が続いている。
- ・県内は転出超過であったが、平成 16 年頃から転入超過となり、その傾向が継続している。本市は、県内における中心都市という位置づけが見られる。

2 厳しい財政状況

2-1 人口減少社会の中での財政事情

普通会計決算の推移



- ・歳入の根幹をなす市税の減少傾向が続いている。このため、国・県支出金や市債発行の増により、財政需要を賄う状況となっている。
- ・歳出では、社会保障に係る経費である扶助費が増加傾向である。人件費の抑制などで対応しているが、公債費(市債の償還)の負担が大きくなっている。